

トアラセット配合錠「三笠」

【この薬は？】

販売名	トアラセット配合錠「三笠」 TOARACET Combination Tablets「MIKASA」
一般名	トラマドール塩酸塩 Tramadol Hydrochloride アセトアミノフェン Acetaminophen
含有量 (1錠中)	トラマドール塩酸塩 37.5mg アセトアミノフェン 325mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safty/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、慢性疼痛/抜歯後疼痛治療剤と呼ばれる薬です。
- ・この薬は、中枢神経系で作用し、鎮痛効果をあらわします。
- ・この薬は次の目的で処方されます。

非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記疾患における鎮痛

非がん性慢性疼痛

抜歯後の疼痛

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると本来の効果が得られないことがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○この薬は、重篤な肝障害（からだのだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、皮膚が黄色くなるなど）がおこることがあるので、この薬の1日量が4錠を超える高用量で長期間使用する場合には、定期的に肝機能検査が行われます。

○この薬とトラマドールまたはアセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用している場合は、医師に伝えてください。【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・アルコール、睡眠剤、鎮痛剤、オピオイド鎮痛剤または向精神薬による急性中毒のある人
- ・モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン塩酸塩（エフピー）、ラサギリンメシル酸塩（アジレクト））を飲んでいる、または飲むのをやめてから14日以内の人
- ・治療によっても症状がコントロールできないてんかんの人
- ・消化性潰瘍のある人
- ・血液に重篤な異常のある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人
- ・腎臓に重篤な障害のある人
- ・心機能に重篤な障害のある人
- ・アスピリン喘息のある人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
- ・過去にトアラセット配合錠「三笠」に含まれる成分（トラマドール塩酸塩、アセトアミノフェン）で過敏な反応を経験したことがある人
- ・12歳未満の小児
- ・18歳未満の肥満、閉塞性睡眠時無呼吸症候群または重篤な肺疾患のある人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・オピオイド鎮痛剤を飲んでいる人
- ・痙攣（けいれん）を引き起こす可能性のある人（てんかんまたはてんかんの既往のある人、あるいは頭部外傷、代謝異常、アルコールまたは薬物の離脱症状、中枢神経系に感染のある人）
- ・呼吸抑制の状態にある人
- ・脳に器質的な障害のある人
- ・薬物を乱用している、または薬物に依存しやすい人
- ・過去にオピオイド鎮痛剤で過敏な反応を経験したことがある人
- ・肝臓や腎臓に障害のある人、あるいは過去にそれらに障害のあった人
- ・過去に消化性潰瘍のあった人
- ・血液に異常のある人、または過去に血液に異常のあった人
- ・出血しやすい人
- ・心機能に異常のある人
- ・気管支喘息のある人
- ・毎日多量に飲酒している人
- ・絶食・栄養状態が悪い・摂食障害などによるグルタチオン欠乏の人、脱水症状のある人
- ・高齢の人

○この薬には併用してはいけない薬 [モノアミン酸化酵素阻害剤 (セレギリン塩酸塩 (エフピーー)、ラサギリンメシル酸塩 (アジレクト))] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔非がん性慢性疼痛に用いる場合〕

一回量	1錠
飲む回数	1日4回空腹時をさけて飲みます。 次の使用まで4時間以上空けてください。

症状に応じて適宜増減されますが、1回2錠、1日8錠を超えて使用できません。

〔抜歯後の疼痛に用いる場合〕

一回量	2錠
飲む回数	空腹時をさけて飲みます。 追加で使用する場合には、次の投与まで4時間以上空けてください。

1回2錠、1日8錠を超えて使用できません。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回分とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

誤って多く飲んでしまった場合、胃腸過敏症、食欲不振、吐き気、嘔吐（おうと）、倦怠感（けんたいかん）、蒼白（そうはく）、発汗などの症状があらわれることがあります。このような症状があらわれたら、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を続けて飲んでしていると、薬をたくさん飲みたいとか、薬がないといられない気持ちになるなど薬物依存の症状があらわれる可能性があります。
- ・この薬は、悪心（吐き気）、嘔吐（おうと）、食欲不振、便秘などの症状があらわれることがよくあります。これらの症状があらわれた場合は医師に連絡してください。
- ・眠くなったり、めまい、意識消失がおこったりすることがあるので、自動車の運転などの危険を伴う機械の操作はしないでください。意識消失により自動車事故に至った報告があります。

- ・この薬とトラマドールまたはアセトアミノフェンを含む他の薬（市販のかぜ薬などにも含まれていることがあります。）を使用している場合は、医師に伝えてください。
- ・この薬の1日量が4錠を超える高用量で長期間使用する場合には、定期的に肝機能検査が行われます。高用量でなくとも長期間使用する場合にも、定期的に肝機能検査が行われることがあります。
- ・この薬による治療は病気の原因に対して行われるものではなく、症状を軽減するために行われるものです。
- ・アルコールを含む飲食物はこの薬に影響しますので、避けてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の人は、授乳を中止してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に教えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識の低下、考えがまとまらない、血の気が引く、息切れ、判断力の低下
アナフィラキシー	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸（どうき）、じんましん、判断力の低下
痙攣 けいれん	けいれん
意識消失 いしきしょうしつ	意識がなくなる、考えがまとまらない
依存性 いぞんせい	薬がないといられない、薬を中止すると手足がふるえ不眠不安けいれん幻覚などをおこす
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう (テン)	からだがだるい、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、食欲不振
皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	からだがだるい、発熱、高熱、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、食欲不振、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、陰部の痛み




重大な副作用	主な自覚症状
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしん せいのうほうしょう	からだがだるい、高熱、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤くなつた皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、食欲不振
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、から咳、息苦しい、息切れ
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	関節の痛み、発熱、頭痛、膨れあがる感じ、血尿
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	からだがだるい、からだのむくみ、疲れやすい、意識の低下、頭痛、眼がはれぼったい、息苦しい、尿がでない、尿量が減る
喘息発作の誘発 ぜんそくほっさのゆうはつ	息切れ、息苦しい、息をするときヒューヒューと音がする
肝機能障害 かんきのうしょうがい	からだがだるい、白目が黄色くなる、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、かゆみ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿が褐色になる
顆粒球減少症 かりゅうきゅうげんしょうしょう	発熱、のどの痛み
呼吸抑制 こきゅうよくせい	息苦しい、息切れ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、からだがだるい、ふらつき、けいれん、関節の痛み、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、発熱、高熱、からだのむくみ、疲れやすい
頭部	めまい、意識の低下、考えがまとまらない、意識がなくなる、頭痛
顔面	血の気が引く、ほてり
眼	眼と口唇のまわりのはれ、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、眼がはれぼったい、白目が黄色くなる
口や喉	しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、から咳、息をするときヒューヒューと音がする、吐き気、嘔吐（おうと）、のどの痛み
胸部	息切れ、息苦しい、動悸（どうき）、吐き気
腹部	食欲不振、膨れあがる感じ、吐き気
手・足	関節の痛み

部位	自覚症状
皮膚	じんましん、全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ（水疱）、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、皮膚の広い範囲が赤くなる、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、かゆみ、皮膚が黄色くなる
尿	血尿、尿が出ない、尿量が減る、尿の色が濃くなる、尿が褐色になる
その他	判断力の低下、薬がないといられない、薬を中止すると手足がふるえ不眠不安けいれん幻覚などをおこす、陰部の痛み

【この薬の形は？】

色	淡黄色
PTP シート	
形状	<p>フィルムコーティング錠</p> <p>表面</p>  <p>裏面</p> 
直径	15.6mm
短径	6.4mm
厚さ	5.1mm
重さ	441mg
識別コード	トアラセット 三笠

【この薬に含まれているのは？】

販売名	トアラセット配合錠「三笠」
有効成分	トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン
添加物	粉末セルロース、アルファー化デンプン、デンプングリコール酸ナトリウム、トウモロコシデンプン、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、マクロゴール 400、黄色三二酸化鉄、ポリソルベート 80、カルナウバロウ

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子どもの手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：三笠製薬株式会社 (<https://www.mikasaseiyaku.co.jp/wp/contact>)

お客様相談室

電話（フリーダイヤル）：0120-652-303

受付時間：9：00～17：30（土日、祝日、会社休日を除く）

以上